

学校教職員に向けた食物アレルギーとエピペン研修会実施について

大出正人

令和3年5月26日水曜日 15時45分から16時15分までの30分間、牧野原中学校生徒食堂にて（学校教職員21名参加）、食物アレルギーとエピペン研修会を行いました。令和3年3月に牧野原中学校養護教諭より食物アレルギーとエピペンに関する研修会実施の依頼があり、昨年は教職員に教材とエピペンの見本を見てもらったとお聞きし、これだけでは十分に理解されているか？と疑問に思い今回研修会講師を引き受けることにしました。研修会は、アレルギー（主に食物アレルギー）の詳細からアナフィラキシー、エピペン使用の注意点に至るまで、スライド形式にて実施しました（主な内容は以下の通り）。

- ① アレルギーとは
- ② 出生から成人までの主なアレルギー
- ③ アナフィラキシーとアナフィラキシーショック
- ④ 食物アレルギーについて
- ⑤ エピペンとは
- ⑥ エピペンの使用すべき症状
- ⑦ エピペンを使用する際の役割分担、使用時の判断
- ⑧ エピペンを誤って使用してしまった場合、どのような反応が起こるか？
- ⑨ 教職員のエピペン使用は、医師法違反にならない。

その後、問題3問を解いてもらい、エピペン投与を実際にシュミレーションして頂くため生徒1人教職員3人役を設定し実技を行いました。

最後にアンケートを記入して頂き17枚を回収。

アンケート内容

- ① 研修会内容について理解出来ましたか？
- ② 一番印象に残った内容は、何ですか？
- ③ 今日の研修内容を、今後の実務にどのように活かしていきますか？
- ④ その他ご質問ご意見ご感想等ありましたら記入ください。

アンケート回答内容は、別紙の通りです。

アンケート用紙集計により、今回の研修会を通してアレルギーとエピペンに対して教職員理解が深まり、実際の対応についても実感して頂けたものと思われまます。また養護教諭から来年も同様の研修会を行って欲しいとの話がありましたので、今回の研修会をきっかけに、さらに生徒に対してもお薬勉強会等を実施し理解の輪を広げていければと思いました。

エピペン研修 アンサーシート

R3.5.26

本日はエピペン研修にご参加いただきありがとうございました。
 今後の研修内容の向上のため、ご意見・ご感想などをお聞かせいただけましたら幸いです。
 ご協力のほどよろしくお願いいたします。

所属学年

年

氏名

1. 研修内容について理解できましたか？(当てはまる項目にチェックをしてください)

- | | | | |
|--------------------------------------|-----|-----------------------------------|----|
| <input type="checkbox"/> よく理解できた | 13人 | <input type="checkbox"/> 理解できた | 4人 |
| <input type="checkbox"/> あまり理解できなかった | 0人 | <input type="checkbox"/> 理解できなかった | 0人 |
| <input type="checkbox"/> どちらとも言えない | 0人 | | |

2. 一番印象に残った内容は何ですか？

- ・今までエピペンの研修は何度も受けていましたが、図や写真で詳しく説明していただき、全体的にとっても分かりやすかったです。
- ・アナフィラキシーではないのにエピペンを打っても大丈夫。
- ・(エピペン)に触れることができたこと。
- ・誤ったエピペンの使い方。
- ・アレルギー症状の評価シートがあるという点。又、誤って打ってしまった場合の後遺症の心配はほとんどないという点。
- ・エピペンの使用 1回のみ有効で15分程度。
- ・エピペンの実技研修。
- ・卵や牛乳はアレルギーの原因だと認識していたが、アナフィラキシーの原因だと思っていなかったし、卵と牛乳で約50%を占めていることに驚いた。
- ・エピペンという注射があることは知っていたが、詳しい使い方などは知らなかったなので、とても勉強になりました。
- ・アナフィラキシーショックがどのような頻度で症状が起こるのか、という話の中で、呼吸器・粘膜・消化器の症状は食物アレルギーの場合気付にくいという所が印象に残った。
- ・エピペンを誤って打ってしまったときでも問題ないということを聞いて少し安心したとともに、心に残りました。
- ・判断は複数で、しかし迷わず打つという点。
- ・具体的な事例をもとにしたクイズは実際の例を考えることができた。
- ・エピペンは誤って打っても大丈夫だということ。15分程度で元の状態に戻るということ。
- ・発達段階によってアレルギーの起きやすい要因(原因)があると分かった。

3. 今回の研修内容を、今後の実務にどのように活かしていきますか？

- ・アレルギーを調べていない生徒や緊急対応のときにいかしていきたい。
- ・エピペンをを使うことをためらわず、使っていきたいと思います。
- ・食物アレルギーがあるエピペンをもつ生徒はいるので迷わず注射できるようにする。
- ・担任ではなく、教科担任・顧問としてその場に居合わせることもあるので忘れずにいたい。
- ・もしもの時に素早く、かつ正しく対応することに活かしていきます。
- ・緊急時に生徒のことをよく観察し、複数の先生方と協力して対応にあたること。
- ・いつ何が起こるのかわからないので研修内容を頭に入れておき、事が起こったときに対処できるようにしておく。
- ・命の危険を感じるのは給食だと思うのでアレルギーのある児童には注意をしたいと感じた。
- ・必要な場面で迷わず打てるようにしたい。
- ・クラスに2人、エピペンを持ち歩いている生徒がいるので、いざという時に備えたいです。迷ったら打つ!!
- ・エピペンを使用しないことが一番ですが、給食などアレルギー持ちの生徒があやまって口にした場合など、スムーズな対応をしていきたいと思います。
- ・実際の場面に遭遇したら、落ちついて「迷ったら打つ」を心に留めます。
- ・担任するクラスにエピペンを所持している生徒がいるため、何かあった際はすぐ対処できるように準備をしておきたい。
- ・初期対応等、まちがえないようにしていきたいと思う。
- ・現場に出くわしたら自信を持って取り組む。
- ・校外学習や林間学校時などは特に注意したいと思います。ぜんそく・アレルギーの子もいるので改めて確認します。

4. その他、ご質問・ご意見・ご感想等ありましたらご記入ください。

- ・ありがとうございました。
 - ・改めてアレルギー反応が起こったときの対応を確認することができました。
 - ・いつ起きるのか分からないという気持ちでいたい。
 - ・有用な研修でした。
 - ・もし誤って打ってしまったとしても大きな問題ではないと聞き安心しました。
 - ・資料が分かりやすくよく理解できました。
- アレルギーが低年齢化している理由は何なのか気になった。
- ・今回初めてエピペンに触れられて漠然とした不安が少しなくなった。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。